

No. 1590

ボロ市にぎわう

—東京・世田谷—

400年の伝統を持つ「世田谷ボロ市」が12月15日、16日東京・世田谷の通称・ボロ市通りで開かれました。通りには骨董品、衣類などの露店が700軒も並び、1日に延べ20万人もの人でにぎわいました。ボロ市の名称は、着物のつぎあてやわらじに使うボロを盛んに売り買いしたことからつけられたとか。ボロ市に、昭和の初めから食料品、日用雑貨等が加わり、値段も安いとあって、お客様に、喜ばれています。活気にあふれるこのボロ市は1月の15日、16日にも、店開きされます。

南米に栄冠

—トヨタ杯カップ—

サッカーの欧州と南米のクラブチーム世界一決定戦が、12月11日6万2千人の観衆を集めて東京国立競技場で行われました。

中立国である日本でトヨタ・カップと名付けられてから今年で9回目。対戦成績は南米の6勝2敗。

先取点は南米代表、ウルグアイのナシオナルが前半7分右からのコーナーキックを相手方ゴールキーパーのミス・パンチしたところをオストラサ選手がヘディング・シュートを決めて、1対0としました。

欧州代表、オランダのアントホーフェンは欧州の深い芝と違って遠目にはきれいに見える穴ぼこだらけのグラウンドに足をとられて苦戦。後半、自力を出し始めた欧州は南米ゴールに攻めります。

そして30分、右タッチラインからのゲレツ選手の長いスローインを、南米からトレードされたソウル五輪得点王のロマーリオがヘディングで決めて同点、喜ぶゲレツ選手をたたえるチームメイト。

1対1のまま延長戦に入り、欧州はペナルティキックで2対1にしたものの、延長終了1分前に南米に追いつかれ最後は全員のペナルティ・キックの争いとなりました。

結局、南米10人目のゴメスのP.Kで3時間の熱闘に決着をつけました。

人口300万人の小さな国ウルグアイがサッカーでは超大国であることを示した「東京決戦」でした。